

特43

9917



明治三十年五月三十日内務省文部 九六〇



志願小尾村
作はせり中村
素とあり
甲子年
...

日輪
...

...

...

日記

日記
 後の助と
 追々長谷
 田中三才
 及び一久
 行末多子
 上の中村
 世のりお
 七の後の
 高僧
 小田原
 竹本



日記
 田中三才
 及び一久
 行末多子
 上の中村
 世のりお
 七の後の
 高僧
 小田原
 竹本

日記
 後の助と
 追々長谷
 田中三才
 及び一久
 行末多子
 上の中村
 世のりお
 七の後の
 高僧
 小田原
 竹本



あつたこと
よふ止しはく
りごの中へ

田舎の

田舎

あつたこと
よふ止しはく
りごの中へ
あつたこと
よふ止しはく
りごの中へ

何國のありとも
あつたこと
よふ止しはく
りごの中へ

あつたこと
よふ止しはく
りごの中へ
あつたこと
よふ止しはく
りごの中へ



あつたこと
よふ止しはく
りごの中へ
あつたこと
よふ止しはく
りごの中へ

あつたこと
よふ止しはく
りごの中へ
あつたこと
よふ止しはく
りごの中へ



日吉丸

日吉丸

日吉丸

日吉丸

日吉丸

日吉丸

日吉丸

日吉丸



日吉丸

日吉丸

日吉丸

日吉丸



空 櫻

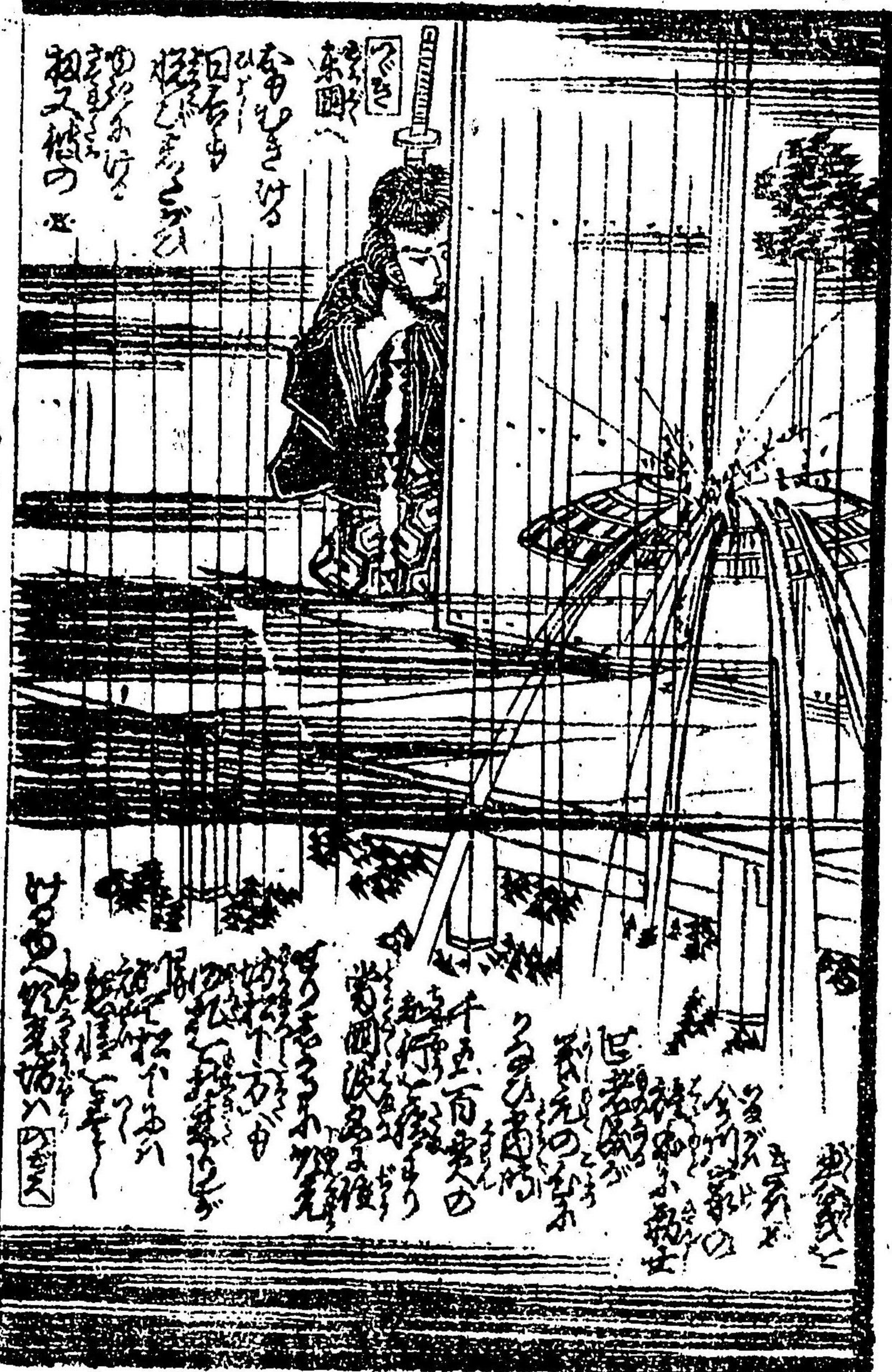
此の時日暮ハ後不
あつたはつたの
と天のふたは井戸の
へは人をもつての

日
小六
ひのふたは
ひのふたは



門
多
の
金
の
今
こ

ま
の
倉
の
の
の



東國
やまびきけり
日吉丸
初又橋の

日吉丸
初又橋の
東國
やまびきけり
日吉丸
初又橋の
東國
やまびきけり
日吉丸
初又橋の
東國
やまびきけり
日吉丸
初又橋の

日吉丸



日吉丸

日吉丸
初又橋の
東國
やまびきけり
日吉丸
初又橋の
東國
やまびきけり
日吉丸
初又橋の
東國
やまびきけり
日吉丸
初又橋の

日吉丸

五

四五日松下小
運の事



しほに六回ちの尾丸
智

田中村の
泰のひかり今草

おん
おん

其男

梅舟の
おん
おん



おん
おん
おん
おん
おん
おん

おん
おん
おん

十五日
おん
おん

おん
おん
おん
おん
おん



其の抱下と云ふ
 春の佳節と云ふ
 けさ
 松下
 其の抱下と云ふ
 春の佳節と云ふ
 けさ
 松下
 其の抱下と云ふ
 春の佳節と云ふ
 けさ
 松下

松下
 其の抱下と云ふ
 春の佳節と云ふ
 けさ
 松下
 其の抱下と云ふ
 春の佳節と云ふ
 けさ
 松下



右師
 其の抱下と云ふ
 春の佳節と云ふ
 けさ
 松下
 其の抱下と云ふ
 春の佳節と云ふ
 けさ
 松下

松下
 其の抱下と云ふ
 春の佳節と云ふ
 けさ
 松下
 其の抱下と云ふ
 春の佳節と云ふ
 けさ
 松下



一、と申すは、
 者之十内と申すは、
 我亦不難別の中と、
 此返るは、
 者若弟向を、
 難別と申すは、
 後此の志、
 伊藤日向守

伊藤日向守
 一、と申すは、
 者之十内と申すは、
 我亦不難別の中と、
 此返るは、
 者若弟向を、
 難別と申すは、
 後此の志、
 伊藤日向守

伊藤日向守
 一、と申すは、
 者之十内と申すは、
 我亦不難別の中と、
 此返るは、
 者若弟向を、
 難別と申すは、
 後此の志、
 伊藤日向守

伊藤日向守
 一、と申すは、
 者之十内と申すは、
 我亦不難別の中と、
 此返るは、
 者若弟向を、
 難別と申すは、
 後此の志、
 伊藤日向守



一、と申すは、
 者之十内と申すは、
 我亦不難別の中と、
 此返るは、
 者若弟向を、
 難別と申すは、
 後此の志、
 伊藤日向守

伊藤日向守
 一、と申すは、
 者之十内と申すは、
 我亦不難別の中と、
 此返るは、
 者若弟向を、
 難別と申すは、
 後此の志、
 伊藤日向守



御届明治十年一月廿日編纂美田村合本橋区方并十基子沢久次郎
 御届明治十年一月廿日編纂美田村合本橋区方并十基子沢久次郎
 御届明治十年一月廿日編纂美田村合本橋区方并十基子沢久次郎

御届明治十年一月廿日編纂美田村合本橋区方并十基子沢久次郎

